

それから、常盤さんの話題の元ネタを日経新聞で見つけたので、御参考に添付しておきます。

あと、弓（弓道）の話ですが、常盤さんに教えて頂いた中島敦の『名人伝』は、青空文庫（インターネット上の電子図書館）で無料で読めます。

http://www.aozora.gr.jp/cards/000119/files/621_14498.html

丸山が聞いた話というのは、『弓と禅』（オイゲン・ヘリゲル）という本になります。

（スティーブ・ジョブズの愛読書ということでも有名になった本です）
簡単なあらすじが、ネット上にありましたので、以下にコピペしておきます。

★伝説の弓道家と、ドイツ人哲学者

1930年頃、阿波研造という、「弓の神」とまで、呼ばれた伝説の弓道家がいた。彼の射る矢は、百発百中で、誰もその腕に並べるものはいなかった。しかし、それほどの腕を持ちながら、ある理由で弓道界から、異端児、狂人扱いされていた。阿波研造の名前を、一躍世界へ知らせめたのは、一人のドイツ人哲学者だった。名は、オイゲン・ヘリゲル。そのきっかけは、ヘリゲルが、東洋哲学に興味を持ったことから始まる・・・

★「理論」の西洋哲学と「内的気づき」の東洋哲学

オイゲン・ヘリゲルは、東北帝国大学に席を置き、西洋哲学の教授として、6年間日本に滞在する中で、東洋哲学の研究をしていた。そして、西洋哲学と東洋のそれとの、最大の違いは、理論ではなく、禅や修行による「内的な気づき」によって、その真髓を会得するところにあることを知った。

親しい日本の友人に事情を説明すると、何か、〇〇道という、道（どう）のつくものを、学ばばいいとのこと。そこで、奥さんは、茶道や華道を、学ぶことになり、ヘリゲル本人は、相談した友人が、「日本一の弓道家」に弓道を習っているのので、弓道を学ぶことに決めたのだった。

★超人 阿波研造

阿波研造氏は、弓道を極めることにより、禅や仏教でいわれる「悟りの境地」の神秘体験をしている。弓道の全国大会で、優勝したときは、4日間連続、全射的中という、前人未踏の記録を打ち立てた。彼が射る矢は、百発百中だったのである。しかし、その輝かしい記録が、もたらしたのは、意外にも、「絶望感」であつた。単にゲームのように、的の的中率を競う弓道に、嫌気がさしたようだ。その頃から、阿波研造の弓道は、変わっていく……

★稽古中に、神秘体験

ある月夜の晩、弓道の稽古中、自己が粉みじんに爆発する感覚に襲われる。そのとき、阿波は、「宇宙との合一」する体験。その後、「大射道教」という、禅と弓道の一致をとく、弓道団体を設立した。しかし、周囲ではそれを非難する声が相次いだ。弓道をする新手のカルト宗教のように罵る人間が絶えなかった。いつの世でも、突出した天才は孤独の運命をたどるようだ……

「弓と禅」の著者、オイゲン・ヘリゲルが阿波研造のもとに、入門してきたのは、丁度そのころだった。

★不可解な教え

ヘリゲルは、入門時から、その不可解な阿波研造の教えに戸惑う。

- 腕の力で、弓をひくな。心で引け。
- 引いた弓矢を自らの意志で放すな。「それ」が放すまで待て。

●的を見るな、狙うな。無心になると、矢は、「それ」が当ててくれる。
などなど・・・

★説明のつかない教えに悩む西洋人の弟子

- 筋肉を使わず、力を入れず、どうやって弓を引くのか？
- 自分の意志で、矢を放さないなら、誰が放つのか？
- 的を見ずにどうやって的に当てるのか？
- そもそも、「それ」とは一体、何なのか？

理解できない教えに、ズバズバ疑問をぶつける。理屈を言わずに稽古を続けなさい、という師匠に対し・・・理屈で納得できなければ、理解できない青い目の弟子。数年間悩みながらも、不可解な教えを実践してみるが、進歩を感じない日々が続き、ついに我慢の限界がくる・・・

★伝説のクライマックスシーン

不可解な教えに理解できぬまま、数年の日々がたち、進歩が無いことを、あせるヘリゲル。「それ」が矢を放つという教えが、どうしても理解できない・・・そして、ついに弓道を辞める決心を告げる。それを聞いた師匠は、ヘリゲルを真夜中に道場に連れて行く。どうやら、暗闇の中、見えない的に、矢を的中させようとしていた・・・

第一に放った矢は、真っ暗闇の中に消え、バシッと突き刺さる音がした。その音で、的に当たったことが、ヘリゲルには、理解できた。まぐれだろ・・・そう思って見てるヘリゲル。しかし、その思いを打ち砕くように、第二の矢が放たれた。暗闇の中に、またも、的に当たる音が聞こえた。驚くべきことに、そのとき、師匠の両目は、ほとんど閉じられていた・・・放たれた矢を、確認するように言われるヘリゲル。矢を確認すると、「第一の矢」は、的の中心に的中し、「第二の矢」は、第一の矢の最後尾「筈（はず）」にあたり、それを、真っ二つに引き裂いて、的の中心に突き刺さっている・・・その神技をみて、しばし呆然とするヘリゲル・・・師匠の阿波は、言った。「暗闇で的が見えない中、

この矢は、私が狙って射たものではない」「この矢は、『それ』が、射たのです。」
不可解な教えに対する不信は、一瞬のうちに消えた。師匠の矢は、弟子の心ま
で射抜いてしまったのだ・・・

この驚異的な技を目の当たりにした後、ヘリゲルは人が変わったように、修行
をつみ、阿波研造から、弓道五段の免状を与えられる。そして、ドイツ帰国後、
日本弓道の思想を本として出版、たちまち大反響をよび、全国を講演してまわ
った。そして、弓聖、阿波研造の伝説はヨーロッパ全土に、広く知れ渡って
いったのだ・・・

東洋哲学の「内的な気づき」というのは、レヴィ＝ストロースの言う「求心的」
に通じるものがありますね。
以上です。

丸山